



公開シンポジウム

# 野生動物ラボの挑戦

## ヤンバルクイナとツシマヤマネコ保全の最前線



2023

12/9 土

13:30～16:20 (開場13:15)

参加無料

事前申込制・先着順

当日 Zoom にてオンライン配信を実施

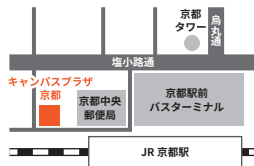
※後日のアーカイブ配信はございませんのでご注意ください

会場

キャンパスプラザ京都  
4階 第4講義室

京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939

JR・近鉄・京都市営地下鉄「京都駅」より徒歩5分



参加申し込み

現地参加・配信視聴ともに事前のお申し込みが必要です

▶下記 URL または二次元バーコードより申し込みフォームにアクセスし必要事項をご入力の上お申し込みください。

▶配信視聴をご希望の方にはご入力いただいたメールアドレス宛に視聴用 URL をお送りいたします。



←お申し込みはこちら

<https://forms.gle/UKsJXQ8uedj89qLU6>

事前申込締切：2023年12月3日(日)

お問い合わせ

公開シンポジウム実行委員会

メール：[env42101-contact@googlegroups.com](mailto:env42101-contact@googlegroups.com)



←変更がある場合はウェブサイトにてお知らせいたします

[http://web.cc.iwate-u.ac.jp/~takehito/erca\\_4-2101/](http://web.cc.iwate-u.ac.jp/~takehito/erca_4-2101/)



プログラム

開会のあいさつと趣旨説明

「ゲノム、ホルモン、細胞から生息域外保全を促進する」

村山 美穂 (京都大学)

「ヤンバルクイナの絶滅の危機に立ち向かう科学者たち」

長嶺 隆 (NPO 法人 どうぶつたちの病院 沖縄)

「ツシマヤマネコの繁殖生理とストレスの評価  
～飼育下繁殖の推進にむけて」

楠田 哲士 (岐阜大学)・木下 こづえ (京都大学)

休憩

「希少野生動物の人工繁殖に活用する生殖細胞保存技術の開発」

金子 武人 (岩手大学)・藤原 摩耶子 (京都大学)

「多様性喪失!? ヤンバルクイナとツシマヤマネコのゲノム解析」

佐藤 悠 (京都大学)・大沼 学 (国立環境研究所)・伊藤 英之 (京都市動物園)

総合討論

閉会のあいさつ



# 野生動物ラボの挑戦

## ヤンバルクイナとツシマヤマネコ保全の最前線

絶滅の危機に瀕する野生動物の保全のためには、「生息域内」の活動に加え、「生息域外保全」として飼育施設での繁殖および野生復帰の取り組みの併用が重要です。私たちはゲノムやホルモンの情報にもとづいて精子や卵子の遺伝資源の保存を推進する研究を行っています。ラボワークによって得られる情報が、保全にどのように貢献できるか、「生息域外保全」の最先端の取り組みを紹介します。

### プログラム

13:30

開会のあいさつと趣旨説明

**ゲノム、ホルモン、細胞から生息域外保全を促進する**

村山 美穂（京都大学野生動物研究センター）

13:40

**ヤンバルクイナの絶滅の危機に立ち向かう科学者たち**

長嶺 隆（NPO 法人 どうぶつたちの病院 沖縄）

1981年の新種発見からわずか20年でヤンバルクイナは絶滅の淵に立たされていました。ヤンバルクイナに降りかかる様々な危機に住民や行政、そして科学者たちが立ち向かい、野生復帰させるまでの取り組みを紹介します。

14:00

**ツシマヤマネコの繁殖生理とストレスの評価～飼育下繁殖の推進にむけて**

楠田 哲士（岐阜大学応用生物科学部）・木下 こづえ（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

国内の動物園や環境省のツシマヤマネコ野生順化ステーションとともに、ツシマヤマネコの糞からホルモン濃度変化を調べ、繁殖生理やストレス状態を調べています。また、野外で死亡した個体も活用し、飼育個体の結果と比較しながら野生個体の状態を調べています。これらの研究がどのように飼育下繁殖の推進につながっていくのかを紹介します。

14:30

休憩

14:45

**希少野生動物の人工繁殖に活用する生殖細胞保存技術の開発**

金子 武人（岩手大学理工学部）・藤原 摩耶子（京都大学野生動物研究センター）

希少野生動物の保全において、人工繁殖は有効な手段として用いられています。生殖細胞とよばれる精子や卵子は、生きたまま保存することで、動物の死後でも長期間にわたり人工繁殖に活用することができます。ここでは、ヤンバルクイナやツシマヤマネコなどの希少野生動物の生殖細胞保存の取り組みについて紹介します。

15:15

**多様性喪失!? ヤンバルクイナとツシマヤマネコのゲノム解析**

佐藤 悠（京都大学野生動物研究センター）・大沼 学（国立環境研究所生物多様性領域）・伊藤 英之（京都市動物園）

絶滅危惧種の遺伝的多様性の解明は近親交配や将来の絶滅リスクの理解に繋がり、保全には不可欠です。近年の解析技術の発展により、ゲノムのごく一部の領域からゲノム全体（全ゲノム）へと解析領域が飛躍的に広がり、多様性が極めて高解像度にわかるようになってきました。全ゲノム解析でわかってきたヤンバルクイナとツシマヤマネコの遺伝的多様性について紹介します。

15:45

総合討論

16:15

閉会のあいさつ